

安達太良山山行報告書(17/02/18)

(山域) 安達太良山

(コース) あだたら高原スキー場駐車場～くろがね小屋～安達太良山～くろがね小屋～駐車場

(日時) 2月18(土曜日)

(天候) 曇り・時々晴れ(強風あり)

(参加者) CL:内堀(記録)・SL:田中・澤田淳・小宮山・牛坂(3月入会)

(山行タイム)

駐車場 9:05～くろがね小屋 10:45～安達太良山 12:45～くろがね小屋 14:15～駐車場 15:40

(山行報告)

田中車が小宮山家に向かい、田中車を駐車させ澤田淳宅から酒々井まで来て、私、牛坂さんを乗せ、酒々井ICより東関東道・圏央道・常磐道と進み、日立中央PAで休憩して、磐越道を進み郡山JCTから東北道に出て、直ぐに二本松ICで降りる。そこより一気に入ら高原スキー場に向かう。スキー場に近づくと道路に少し雪が付いていた。スキー場に車を駐車して登山準備を進める。12月来た時はスキー場の滑走面の地肌が一部見えていたが、今回はびっしり雪に覆われていた。1m50cmでそこそこの雪がある。スキー場脇を進み登山道と進む。この地点でも雪が多く、すり鉢状になっている道も平らに真直ぐになっている。行けるところまでツボ足で行こうと決め進む。登山道を進むと馬車道(旧道)を何回か交差しながら進む。前日までの温度上昇と急激な冬型から、登山道は締まり歩きやすい。スキー場では風が強く、安達太良山付近は雲の中である。勢至平までは風は無く順調である。勢至平の休憩場所には既に休憩している方々がいるため、スルーして進んでしまう。その先は良い休憩ポイントが見つからず、くろがね小屋まで進んでしまった。何時も見ると沢等が雪で隠れていた。途中、澤田路子さんと遭遇する。わかんを忘れたとの事から、くろがね小屋に戻り取りに行ったが、無くトボトボ戻って来ていた。くろがね小屋先のルートで見つかったら回収して欲しいと依頼をされた。くろがね小屋ではお湯を沸かし長い休憩を取る。皆さん各々、行動食・トイレ休憩と行っていた。休憩後は小屋の外に出てアイゼンを装着する。全員揃った所で、登り始めるが、小屋からの登り始めはU字工の様になっているはずが、雪が多く、平らである。岩も隠れている。雪が締まりアイゼンの効きか良く登り易い。雪が多いため、ポールを目印に大まかに進む。風が強くルートは不明瞭気味である。天候は朝より良く時々青空が見えてくる。峰の辻に出てくると、先を見ると安達太良山が良く見える。一旦、下降して安達太良山目指し登る。この頃になると風は強く時折、突風が吹いてくる。一步一步進み安達太良山稜線に出た。あともう少しの所で何回か突風が吹き、体勢を整え後ろを見ると、牛坂さんが固まっていた。少し風が強いため進めないのかなと思い、駆け寄り次の行動を検討する。田中さんからロープを使用したら良いと提案があり、ロープ・ピッケルを出して進み、乳首まで登ることが出来た。記念撮影後は、安達太良山看板まで下り、記念撮影してようやく儀式は終了である。ロープを出したため意外と時間が掛ってしまった。私はカラビナ・スリングがザック一番奥のため、小宮山さんのスリングを借りてしまった。反省である。出しやすい場所にある事も重要である。次回から気を付けよう。午後になると二本松・福島市内が一望出来、近くの山も見えてきた。風は強いが景色が此処まで見ればありがたい。景色を堪能しながら下山する。峰の辻から一気にくろがね小屋まで進んだ。小屋で休憩するか相談の結果、また休憩費が掛ると困るため、そのまま下山する。途中、勢至平で休憩を取り、その後は、スキー場まで進んだ。途中、澤田路子さんの「わかん」を発見出来なかった。その後のメール(澤田淳さん宛)を頂き、同行者がわかんを持って下山したとの事でした。良かったね。駐車場に到着後は岳温泉まで戻り、「岳の湯」に宿泊手続きを取った。¥3,600/人(食事無) 部屋は綺麗・布団・浴衣有、源泉温泉ありと至れり尽くせりと何でもある。調理場は広くガスコンロ・電気釜・電子レンジ・鍋・フライパン・包丁何でも揃っている。お風呂に入った後は、料理の準備に取り掛かる。事前に購入していたので、この日はキリタンポ鍋・副菜(3品)を作り宴会となる。ビール・日本酒・ワイン・焼酎と進み酔いが回り、山行話しに盛り上がり時間を忘れてしまった。明日の帰りに響くため遅

くならない内に就寝した。部屋も2部屋用意され、男子・女子と別れ使用した。他のお客も入っており、登山者や湯治客含め沢山いました。調理場は空いており使いたい放題であった。調理場隣には洗濯機や乾燥機（コイン式）があり、全て揃っていた。部屋はリフォーム済み。布団に入る1分もしない内に就寝してしまい。翌朝5:30頃には起床する。翌朝も風呂に入り、その後、朝食を食べてゆっくり帰業する。お昼頃自宅に到着出来た。早いため山道具の整理・洗濯を済ませ。昼寝をして体を休めた。たまにはこんな山行も良いものである。岳温泉の「岳の湯」は穴場であり、山菜時期・紅葉時期などは良い宿泊施設である。くろがね小屋が一杯の時はここも選択肢の一つとして考え山行計画したいものである。新歓・集中・望年山行にもってこいの場所であると感じた。







以上